

## 18-14 授業解題

島名：グローバル・イシュー

教科（領域）：英語と理科の教科横断授業

単元（教材）：「ニュートンを題材にした教科横断型授業」

対象：附属高等学校3年1組

授業者：佐古孝義先生（英語）・岡本幹先生（理科）

### 1. グローバル・スタディーズの観点からみた本授業の「強み」

本授業では、第1時はニュートンについての英文の記述を発端に、そこに登場する『プリンキピア』に関連して、運動法則について書かれた部分の英訳を読み、現代日本の物理教科書における記述との違いについて考えた。「ユニバーサル・ランゲージ（世界共通言語）」であるはずの物理法則についても、その時代文脈というローカルな側面の理解を促す試みがなされていた。

また、ニュートンの科学に対する姿勢、研究への情熱を改めて読み解くことから、時代や文化を越えて普遍的に研究者に求められる資質“grit”について、心理学の研究成果を紹介した文章を読んだ。その後、心理テストの形式で自身のgritについて考える試みが行われた。心理テストの形式を用いたことによって、だれもが自身のキャリア中にgritを位置付けて捉えることを容易にする工夫がなされていた。ユニバーサルな事象と自身との関係を考えることによって、自身がグローバル社会の一員であるという自覚を高めるのに有効な授業となっていた。

### 2. グローバル・スタディーズのカリキュラム開発にむけて

2時限の授業の中に意欲的な試みが盛り込まれすぎていて、一部の内容を時間中に充分生徒同士で議論することができなくなってしまったことが惜まれる。